

松阪市における高齢者の生活実態（第2報）

日常生活及び地域社会生活について

松阪大女短大 ○梅村郁子 渡辺澄子

《目的》前報と同じく松阪市における高齢者の生活実態調査をもとに、12年前の実態調査の結果と比較することにより、その変化と実態を明らかにした。本報では高齢者の日常生活及び地域社会生活について報告する。

《方法》前報と同じである。

《結果》全体を通して、女性に変化した結果、前回見られた男女の差が縮小したことで、加齢に伴う生活の変様が、前回ほどは読み取れないということがいえる。高齢者の家事時間は男性で増加し、女性で減少している。しかし家事の実施率では依然として女性が高い。女性の場合、職業時間の増加もあって、自由時間はむしろ減少しているが、職業時間、自由時間ともに満足度は上がっている。男女ともに新聞、テレビに当てる時間は長くなっている。趣味の実施率は前回より低下している。地域社会では、男女ともに異性を含む友人のある者が増えており、近所づきあいや年賀状も増えている。前回多かった老人会への参加が減少し、同窓会が増加している。女性の奉仕、学習、趣味、スポーツ活動への参加が伸びており、旅行日数でも女性の伸びが大きい。市の福祉対策については、新しく加わったものへの周知度は低い。男女ともに社会に貢献しているという意識は上がっている。こうした変化の要因を、前回示した高齢者の生活構造分析の手法を用いて探りたい。